

◎ 美術館情報

【各施設では、下記の特別展・企画展等のほか、常設展を開催しております。】

1. 愛知県陶磁美術館 (<http://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/index.html>)

4月13日(土)～6月16日(日)

企画展：黄金の地と南の海から ―町田市立博物館所蔵 東南アジア陶磁コレクション―
本展は、財宝と陶磁器を求めて東南アジアに集まった古の人々の思いと、大洋を旅した陶磁器の往古に思いを馳せつつ、町田市立博物館の東南アジア陶磁コレクションの中から選りすぐりの作品を紹介します。



2 ヤマザキマザック美術館 (<http://www.mazak-art.com/cgi-bin/museum/>)

4月20日(土)～8月25日(日)

企画展：塩川コレクション「ロイヤル コペンハーゲンのアール・ヌーヴォー」

本展は、19世紀末から20世紀初頭にかけて欧米で流行したアール・ヌーヴォーの時代に、デンマークから世界に向けて発信された美しく愛らしい釉下彩(ゆうかさい)の数々を紹介いたします。この展示の主役であるいきものの姿をかたどった磁器作品「フィギャリン」は、ミルクシーな釉下彩の風合いと動物たちのかわいさが相まって、ロイヤル コペンハーゲンならではの魅力を放っています。

3. 土岐市美濃陶磁歴史館【岐阜・土岐】(http://www.toki-bunka.or.jp/?post_type=eventm)

3月1日(金)～5月26日(日)

企画展：『山茶碗』×重要文化財公開『元屋敷陶器窯跡出土品展』

およそ400年ものあいだ生産が続いた素朴な器「山茶碗」の歴史をご紹介します。あわせて、国史跡「元屋敷陶器窯跡」の出土品のうち重要文化財指定の品々を一挙に公開。素朴な山茶碗と大胆なゆがみを持つ織部の茶碗。時代によって異なる「茶碗」の意匠や用途が美濃焼の歴史の一端から垣間見えます。

4. 出光美術館【東京・千代田】(<http://idemitsu-museum.or.jp/exhibition/schedule/>)

4月6日(土)～6月9日(日)

企画展：六古窯 ―〈和〉のやきもの

素朴ながらも豪快で力強さを備える中世のやきもの。中世から現代にまでつづく瀬戸、常滑、越前、信楽、丹波、備前のやきものは六古窯(ろくこよう)と称され、日本的なやきものとして親しまれてきました。これら中世のやきものは、当時の人々の生活の必需品でしたが、後に茶の湯のうつわとしても注目されます。また唐物など舶来の文物に影響を受けながらも、各地で独自のスタイルを生みだしました。本展では青銅器、中国陶磁といった唐物などもあわせて展覧しながら中世のやきものの魅力をご紹介します。

5. 大山崎山荘美術館【京都・乙訓郡】(<https://www.asahibeer-oyamazaki.com/tokubetu/41057/>)

3月21日(木)～6月9日(日)

企画展：没後40年 バーナード・リーチ展 ―山本爲三郎コレクションより



本展は、山本家から寄贈され、開館以来当館所蔵品の軸である山本爲三郎コレクションを中心に、山本の自邸に建てられ初期民藝運動の拠点となった「三國荘」や、山本が大阪ロイヤルホテル(現・リーガロイヤルホテル(大阪))に開設した「リーチバー」ゆかりの作品、柳、民藝運動の作家たちとの交流を示す貴重な作品などを含む、約100点を一挙に公開いたします。